

皆さま、新米です！！



とにかく苦労の連続だった今年の田んぼ。見習いから初めて8年目になりますが、これまでで一番大変な思いをしました。無事に収穫することができ、言葉では表しつくせないほどホッとするやら嬉しいやら。最後はお天道様頼みだった分、素直に「神様ありがとう！」という気分です。

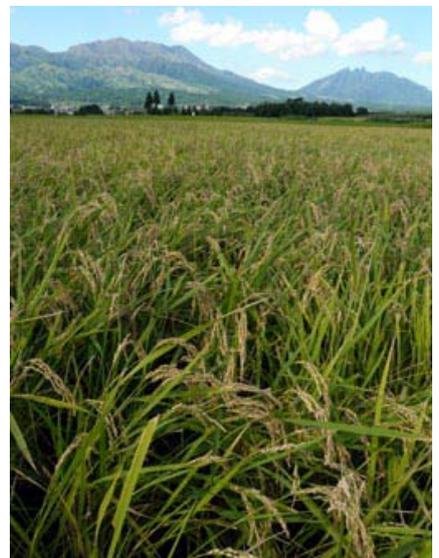
「苗半作」という言葉をご存知ですか？苗がうまくできれば、米作りの半分はできたような

もの、という言い伝えだそう。今年はその言葉の意味を痛感しました。春に気温が低かったために苗が十分に育たず、そのために例年の2~3倍の植え直しや草取り作業をするはめになったのです。「苗半作というのはこういう事なのか！」という大きな経験をしました。さらに、今年の田んぼから学んだことの一つは「決して諦めてはいけない」ということ。無駄かもしれない、と思いつながら倒れた苗を植えなおしたり、ジャングルのように茂った雑草をとり続けたり。望みを捨てなかったことが、良い結果につながったようです。今年のお米は例年よりも「粘り」があるかもしれません！？



成育の悪い苗のおかげで毎日暗い顔をしていた耕太。「長い百姓人生、不作の年くらいあるよ！」と励ますものの、言葉だけではほとんど効果なし。お客様が楽しみに待っていて下さる、というプレッシャーが彼にのしかかっていたのです。リフレッシュのために役割を交代することを提案。耕太は子供たちを連れて川や山にお出掛けに。私は久々なので張り切って農作業。しばらく

すると耕太に笑顔が戻りました。8月はたくさんのお客さんに元気をもらい、また稲もぐっと成長し、前向きな気持ちで稲刈りを迎えました。まだ半分くらいしか収穫していないのでぬか喜びはできませんが、これまでのところ収穫量は平年並みかちょっと上回る程！味の方は皆さまに判断して頂くことにします。新米の甘味と歯ごたえをどうぞお楽しみください。



そう、お客さん。8月のO2ファームは千客万来でした。家族だけで過ごしたのはたったの数日！それにしても、うちに来るお客さんはみんな働き者ぞろいで助かります。農作業、家事、子守り。思い思いの方法で手伝ってくださりました。最も長く滞在したのは、友人のドイツ人。旦那さんが息子を連れて17日間のバケーション。その間奥さんは息抜きするやら、仕事に精を出すやら。息子さんはうちの双子と一緒に歳の、まるで三つ子のような。三度の食事は、それはそれは壮絶でしたが（笑）、ドイツ人の男性は基本的によく働くんです！食べたらずっと片付けてテーブルを拭く、頼まれなくても洗濯物を干してくれる、子どもたちの面倒もよく見てくれる、などなど。600個以上もある育苗箱を洗って片付けてくれたのと、手づくりの虫取り網を作ってくれたのは大きな功績でした。



話を稲刈りに戻します。機械好きな子供たちですが、「コンバインはかゆくなるから乗らない」と訳知り顔の長男次男。小さなクズやホコリが風で飛んでくるので、いろんなところがかゆくなるのです。「稲刈りが始まるよ」と言ったとたん、そんなことはまだ気にしない三男が「コンバインに乗る！」とやる気満々。お父さんの恰好を真似てか、自らヘルメットや耳あてを引っ張り出して準備万端。真剣なまなざしで機械を操作していた耕太も、意気揚々と現れた讃太郎を見て思わず吹き出していました。熱意に負け、コンバインに乗せて稲刈りをする日々です。



稲刈りの後に残るワラは牛の餌にするのですが、田んぼ1枚分のワラだけはそれとは別に昔ながらの方法で保存することに。まずは束ねたワラを立てて乾かします。しっかり乾いたら「小積み」というものを近所のおじいちゃんに教えてもらってつくる予定です。子供たちと一緒にワラを立て終わると、さっそくかくれんぼやおにごっこが始まりました。こんなに喜ぶなら、田んぼ1,2枚分位は毎年ワラを残して小積みになりたいと思うほどです。来月開催予定の小積みイベントのご報告は次号に載せますので楽しみに。もちろん参加のお問い合わせも大歓迎です！



秋の訪れ。阿蘇の朝晩はともすると肌寒いほどです。長かった今年の夏も、ようやく終わりに近づいていますね。夏の疲れでバテないよう、新米をもりもり食べて元気をつけてください！新米はまだ瑞々しいので、お水をいつもより若干控えめに炊いて頂くと、いっ

そうおいしく召し上がれます。さあ、O2Farmでとれたお米が、これから一年間いろんな所のいろんな方の元へと届きます。皆様のご健康とご多幸に、少しでも貢献できますように。今年のお米もどうぞよろしくお願い致します。

